

令和
7
年度入学用

音楽研究科 博士前期課程 学生募集要項

音楽研究科 博士前期課程

出願期間：令和6年8月21日～令和6年8月28日 締切日消印有効

試験日程：令和6年10月19日、20日

合格発表：第1次選考/令和6年10月20日 午前8時

最終選考/令和6年10月29日 午前11時

入学手続：令和6年12月10日～令和6年12月17日 締切日消印有効

愛知県立芸術大学大学院音楽研究科博士前期課程

■入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

音楽研究科博士前期課程では、専門領域に関する高度な技能と知識を有し、音楽に関する研究をもって社会に貢献しうる人を求めています。

◎求める人物像

- ・志望領域について基本的な知見と論理を構築する能力を有する人
- ・志望領域について創造性のある表現力や構想力を有する人
- ・高い向学心を有し研究心が旺盛である人
- ・柔軟な思考力と物事に対する洞察力を有する人
- ・学際的研究能力と国際的な感覚を持ち合わせた人

◎入学者選抜試験の基本方針

- ・志望領域の基礎知識や高度な専門能力、語学力と国際的感覚を修得していることを期待しています。
- ・各領域の特性に応じて、その専門性に沿った入学審査を行います。

■教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

音楽研究科博士前期課程は1専攻6領域（作曲、音楽学、声楽、鍵盤楽器、弦楽器、管・打楽器）から構成されており、学部で身につけた専門性を高めることを目指しています。また、領域の枠を超えて開講されるさまざまな授業を横断的に履修することができます。

◎カリキュラムの編成方針

- ・音楽総合研究を中心に、個性、専門性、知見の拡充を目指した領域横断的なカリキュラムを実施しています。
- ・音楽総合研究では、学生個々が年度ごとに研究計画書を作成し、学生の独自性、専門性を尊重しながら、その計画に沿って指導します。
- ・各領域が開設する「特殊研究」には、各専門領域での知見を深める授業のみならず、他領域の授業や、教養教育、或いは美術研究科との連携も含めた複合領域による授業などがあり、領域横断的な研究を行うことが可能となっています。
- ・博士後期課程への研究の継続性を図るため、創作・演奏領域の学生の修了論文（一部選択科目）の指導も行います。

◎学修成果の評価について

- ・学生個々の研究計画書に則り、研究状況と成果を総合的に評価します。

■修了認定・修士授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

音楽研究科博士前期課程は、学部教育を基礎とした音楽専門教育の充実を図りながら、芸術の学問的教育研究に対応した柔軟な教育課程を編成・提供することにより、現代の様々な芸術表現や社会の要請に対応するのみでなく、社会の需要を自ら掘り起こす能力を身につけた人材を養成することを目的とします。

◎学修成果目標

- ・高度な専門性と、領域の枠を超えた学修によって得た幅広い知識、現代社会において音楽に関わることができる能力を身につけます。
- ・国際的な視野を持って芸術文化の発展に寄与できる能力を身につけます。

◎学位認定の方針、評価方法

- ・所定の期間在学し、必要な研究指導を受け、所定の単位を修得した上で「修士作品」又は「修士論文」「修士演奏」の審査を経て、最終試験に合格した学生を修了と認め、修士（音楽）の学位を与えます。

目 次

1. 募集人員	2
2. 出願資格	2
3. 出願手続	3
4. 出願書類	3
5. 障がい等を有する等の入学志願者との事前相談について	4
6. 出願書類・相談申請書提出先及び受験に関する照会先	4
7. 選抜方法	5
8. 試験日程及び試験科目	5
9. 合格発表	6
10. 入学手続	6
11. 授業料	6
12. 入学検定料、入学料、授業料の免除・還付制度について	6
13. 入試結果の閲覧	8
14. 個人情報の取扱いについて	8
15. 教員組織（令和6年4月1日現在）	9
■実技試験内容及び課題曲	11
■令和6年度入学試験実施状況	17
■令和6年度入試 試験問題	18
■様式集	
・入学願書	
・入学検定料納付証明書貼付欄／受験者写真票／受験票	
・研究計画書 表紙（音楽学領域）	
・研究計画書 表紙（音楽学領域以外）	
・入学検定料振込用紙	

令和7年度愛知県立芸術大学大学院 音楽研究科博士前期課程学生募集要項

1 募集人員

音楽研究科	音楽専攻	領域	募集人員
		作曲	30名
音楽学			
声楽			
鍵盤楽器（ピアノ）			
弦楽器			
管・打楽器			

2 出願資格

本研究科に出願できる者は、次の各号のいずれかに該当する者としてします。

- (1) 大学を卒業した者及び令和7年3月31日までに卒業見込みの者
- (2) 学校教育法第104条第7項の規定により、学士の学位を授与された者及び令和7年3月31日までに学士の学位を授与される見込みの者
- (3) 外国において、学校教育における16年の課程を修了した者及び令和7年3月31日までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者及び令和7年3月31日までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者及び令和7年3月31日までに修了見込みの者
- (6) 外国の大学その他の外国の学校（その教育研究活動等の総合的な状況について、当該外国の政府又は関係機関の認証を受けた者による評価を受けたもの又はこれに準ずるものとして文部科学大臣が別に指定するものに限る。）において、修業年限が3年以上である課程を修了すること（当該外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより当該課程を修了すること及び当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって前号の指定を受けたものにおいて課程を修了することを含む。）により、学士の学位に相当する学位を授与された者及び令和7年3月31日までに授与見込みの者
- (7) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び令和7年3月31日までに修了見込みの者
- (8) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号） ※1
- (9) 本学大学院において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、令和7年3月31日までに22歳に達したもの ※2

※1 旧大学令による大学、各省庁組織令・設置法による大学校等を卒業した者及び卒業見込みの者を示す。

※2 出願資格(9)により出願しようとする者は、必ず令和6年7月4日（木）までに入試課に申し出て、令和6年7月11日（木）（消印有効）までに出願資格審査申請書を提出してください。

3 出 願 手 続

(1) 出願期間

令和6年8月21日(水)から8月28日(水)まで 締切日消印有効

※ただし、日本国外から出願する場合は締切日午後5時必着とする。

(2) 出願方法

出願書類を本学所定の出願用封筒を用い「簡易書留速達郵便」により郵送してください。

普通郵便及び直接持参は受理しません。

出願用封筒の表に必要な事項を記入し、志望する領域名に○をつけてください。

(注) パーカッション(打楽器A)受験者は「打楽器A」、マリンバ(打楽器B)受験者は「打楽器B」に○をつけてください。

4 出 願 書 類

(1)～(5)及び出願用封筒は、本募集要項巻末の様式及び本学所定の封筒を用いてください。

(1) 入学願書

様式に必要な事項を記入してください。

(2) 入学検定料納付証明書貼付欄・受験者写真票・受験票

それぞれ、氏名、志望領域を記入してください。受験者写真票には、写真1枚(縦4cm×横3cm、正面、上半身、脱帽、出願前3か月以内に撮影したもの)を貼付してください。写真の裏面に氏名、志望領域名を記入してください。

(3) 入学検定料 30,000円

ア 入学検定料振込用紙の太線枠内に必要事項を記入してください。

イ 「ご依頼人」欄は受験者本人の氏名を記入してください。

ウ 入学検定料の納入は、振込依頼書により令和6年8月14日(水)以降に必ず**金融機関の窓口**で行ってください。ゆうちょ銀行及びATMからは送金しないでください。

エ 振込手数料は、各自ご負担ください。

オ 検定料納付証明書は、入学検定料納付証明書貼付欄に貼り付けてください。

(4) 研究計画書

音楽学領域以外の志願者は、1,200字程度の研究計画書を所定の様式で提出してください。

音楽学領域の志願者は、11ページ「II. 音楽学領域の研究計画書」を参照のうえ、所定の期間内に提出してください。詳細については、巻末の研究計画書表紙の記載事項を参照してください。

(5) 返信用封筒(受験票等送付用)

受信地住所、氏名、郵便番号を明記し、**速達郵便料分(344円)の切手**を貼付してください。

(6) 出身大学の成績証明書(本学卒業者及び本学卒業見込みの者は提出不要)

出身大学長又は学部長が作成したものを提出してください。

(7) 出身大学の卒業証明書又は卒業見込証明書(本学卒業者及び本学卒業見込みの者は提出不要)

出身大学長又は学部長が作成したものを提出してください。

(注1) 最終学歴が中華人民共和国の教育機関の方は、CHSI(中国高等教育学生信息网)が発行する「教育部学历证书电子注册备案表(英語版)」をPDFファイルで入手後、A4用紙に印刷し、提出してください。こちらの日本語訳の提出は不要です。手続きの詳細は、CHSI(中国高等教育学生信息网)のウェブサイト(<https://www.chsi.com.cn/xlcx/bgys.jsp>)をご確認ください。

(注2) 大学改革支援・学位授与機構から学士の学位を授与された者は学位授与証明書の写し、授与見

込の者については大学改革支援・学位授与機構が発行した学位授与申請受理証明書又は下記の①及び②の書類を提出してください。

- ①志願者が在籍する短期大学の専攻科又は高等専門学校専攻科の修了見込証明書
- ②志願者が学位の授与を申請する予定である旨の志願者が在籍する短期大学長又は高等専門学校長の証明書

(8) その他

- ア 納付された入学検定料及び提出された書類は、返還しません。
- イ 提出書類の不備のものは、受理しません。
- ウ 記入ミスをしたときは、誤記した文字を二重線で抹消してください。(訂正印は不要)
- エ 各種証明書は、出願前3か月以内に取得したものを提出してください。また、各種証明書と現在の氏名が異なる場合は、氏名変更の事実が確認できる書類(戸籍抄本等)を提出してください。
- オ 受験票は、入学手続の時まで大切に保管してください。
- カ 外国語の出願書類がある場合は、そのすべてに日本語訳を添付してください。ただし、中華人民共和国の教育機関が最終学校の方のCHSIの教育部学历证书电子注册备案表(英語版)については、日本語訳の提出は不要です。
- キ 試験は、対面で実施します。海外から来日し受験を検討している方は、日本へ入国・滞在できるか否かについて、出願前に必ずご自身で確認してください。入国できない場合でも、追試験等の特別措置及び入学検定料の返還は行いません。
- ク 外国人留学生は、入学手続日までに「出入国管理及び難民認定法」(昭和26年政令第319号)において、大学院入学に支障のない在留資格を取得してください。
- ケ 受験票は、令和6年9月4日(水)以降に送付します。9月11日(水)までに届かなかった場合、入試課までお問合せください。

5 障がい等を有する等の入学志願者との事前相談について

本研究科に入学を志願する者で、障がい等を有する者等は、受験上及び修学上特別な配慮を必要とすることがありますので、事前に入試課(0561-76-2603)に相談し、出願前に申請書等を提出してください。

- (1) 相談の時期
令和6年7月23日(火)まで
- (2) 相談の方法
相談申請書に医師の診断書(身体障害者手帳を有する者はその写し)を添えて、入試課まで書面で提出してください。相談申請書には次の事項を記載してください。(様式任意)
①志望領域 ②障がいの種類・程度 ③受験上の特別な配慮を希望する事項
④修学上の特別な配慮を希望する事項 ⑤その他参考となる事項
申請後、必要な場合は、本研究科において志願者との面談等を行います。

6 出願書類・相談申請書提出先及び受験に関する照会先

〒480-1194 愛知県長久手市岩作三ヶ峯 1-114 愛知県立芸術大学 入試課
電話 0561-76-2603 (直通) (照会時間は平日午前9時から午後5時まで)
ただし、土・日曜日、祝日等の休業日は除きます。
メールアドレス admission_pr@mail.aichi-fam-u.ac.jp

7 選 抜 方 法

入学者の選考は、以下のとおり行います。(試験場：本学)

第一次選考 実技試験等(作品審査含む)の成績による判定

最終選考 第一次選考の結果、学力検査及び面接試験の結果を総合した判定

(1) 評価基準

本学大学院音楽研究科で、研究を深めるために必要な実技の能力と学力を問います。

(2) 判定基準

専門領域の能力を重視し総合的に判断します。

8 試験日程及び試験科目

領 域		音 楽 学	作 曲	声 楽	鍵盤楽器	弦 楽 器	管・打楽器
年月日							
令和6年 10月19日 (土)	第 一 次 選 考 ※1	研究計画に基づく 口述試験 13:00～	提出作品と 研究計画に 基づく 口述試験 13:00～	実 技 10:00～	実 技 9:30～	実 技 10:00～	実 技 10:00～
10月20日 (日) ※2	最 終 選 考	第一次選考合格発表 8:00 場所：本学管理棟で掲示及びウェブサイト掲載(※2・3)					
		外国語(英、独、 仏、伊から1ヶ国 語) 10:00～11:30 ※集合時間 9:45	西洋音楽史 9:30～10:30 ※集合時間 9:15	外国語(英、独、仏、伊から1ヶ国語) 11:00～12:00			
		音楽学 12:30～14:00		面接試験 13:00～	面接試験 13:00～	面接試験 13:00～	面接試験 13:00～
		最終合格発表 11:00 場所：本学管理棟で掲示及びウェブサイト掲載(※3)					
10月29日(火)							

※1 実技試験内容及び課題曲については11～17ページ「実技試験内容及び課題曲」を参照してください。

※2 最終選考は、第一次選考合格者のみ受験することができます。

※3 本学ウェブサイト「入試情報」 <https://www.aichi-fam-u.ac.jp/admission/>

本学ウェブサイト「入試情報」にて掲示内容の情報提供をしますが、掲示の補助手段として実施するものです。情報提供には万全を期しておりますが、学内の掲示をもって正式な通知といたしますので、ご了承ください。

【注意事項】

- ・音楽学領域以外の外国語については、辞書の持ち込みを1冊のみ許可します。ただし、電子辞書の使用は認めません。
- ・音楽学領域の外国語については、辞書の持ち込みは不可とします。
- ・遅刻した場合、受験できないことがありますので注意してください。
- ・入学試験当日、学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症(インフルエンザ、麻疹、水疱瘡、新型コロナウイルス感染症等)に罹患し治癒していない場合又は罹患した疑いがある場合は、他の受験者や監督者等への感染の恐れがありますので、原則として受験をご遠慮願います。ただし、病状により医師が伝染の恐れがないと認めた場合は、この限りではありません。
- ・上記により受験をご遠慮頂いた場合でも、追試験等の特別措置及び入学検定料の返還は行いません。体調管理については十分に注意してください。

9 合格発表

- (1) 日 時 令和6年10月29日(火)午前11時
(2) 場 所 本学管理棟で掲示（電話等による合否に関する問い合わせには一切応じません。）

※合格者には、合格通知書及び入学手続要領（『入学ガイド』）を郵送します。

※本学ウェブサイトにて掲示内容の情報提供をしますが、掲示の補助手段として実施するものです。

情報提供には万全を期しておりますが本学から送付する通知書及び学内の掲示をもって正式な通知といたしますので、ご了承ください。

本学ウェブサイト「入試情報」 <https://www.aichi-fam-u.ac.jp/admission/>



(3) 追加合格

定員に欠員が生じた場合は、追加合格を行う場合があります。追加合格実施の有無は、令和6年12月19日（木）午後5時に本学ウェブサイト「入試情報」にて発表します。

追加合格を実施する場合は、令和6年12月20日（金）午前9時から午前10時の間に電話で連絡します。ただし、電話に出ない場合もしくはその場で諾否の意思表示ができない場合は、入学を辞退したものとみなします。

10 入学手続

期間

令和6年12月10日（火）から17日（火）まで 締切日消印有効

※提出書類を「簡易書留速達郵便」により郵送してください。

※ただし、日本国外から郵送する場合は締切日午後5時必着とします。

- (1) 入学料及び保険料
284,430円
(内訳) ・入学料 282,000円
・学生教育研究災害傷害保険・付帯賠償保険 保険料 2,430円（2年間分）
ア 入学料は、愛知県公立大学法人授業料等徴収規程の定めるところによります。なお、入学料及び保険料は改定されることがあります。
イ 納付された入学料は返還しません。
- (2) 入学料及び保険料の振込にあたってのお願い
ア 合格者は、本学所定の振込依頼書により入学料及び保険料を納入し、所定の提出書類と、入学料及び保険料の振込金受取書を持参の上、指定された期日に入学手続をしてください。
イ 入学料及び保険料の納入は、**金融機関の窓口**から行ってください。
ゆうちょ銀行及びATMからは送金しないでください。
ウ 振込金依頼書の「**ご依頼人**」欄は**合格者本人の氏名**を記入してください。
- (3) 入学手続を完了しない場合は、入学を辞退したものとして取り扱います。
- (4) 入学手続を完了した者であっても出願資格において「見込み」で受験し、入学に必要な要件を令和7年3月31日までに満たせない場合は、入学許可を取り消します。

11 授業料

年額 535,800円（前期・後期各267,900円。前期分は4月、後期分は10月に納入します。）

授業料は、愛知県公立大学法人授業料等徴収規程の定めるところによります。

なお、授業料は改定されることがあります。

12 入学検定料、入学料、授業料の免除・還付制度について

(1) 入学検定料の免除

次のいずれかの項目に該当する場合は、申請により入学検定料の全部が免除されることがあります。詳細については、下記の期限までに問い合わせてください。

- ① 生活保護法による被保護家庭の子弟である者

- ② 入学試験前1年以内において、学資負担者が風水害その他の災害(※1)を受けたことにより、入学検定料の納付が極めて困難になった者
- ③ 入学試験前1年以内において、学資負担者の死亡、長期療養(※2)、会社の倒産・解雇等による失業(※3)又は事業の倒産により、入学検定料の納付が極めて困難になった者

※1：市町村長等から「災害に係る住家の被害認定基準運用指針」に基づく「全壊」、「大規模半壊」及び「半壊」のいずれの認定を受けたことをいう。

※2：長期に入院する必要が生じたことをいう。

※3：会社の倒産・解雇等による失職のことをいう。定年や自己都合による退職はこれに含まない。

問合せ期限	令和6年7月25日(木)
-------	--------------

(2) 入学料の還付

次のいずれかの項目に該当する場合は、申請により入学料の全部又は半額が還付されます。詳細については、下記の期限までに問い合わせてください。

※入学料は必ず全額納付してください。

- ① 生活保護法による被保護家庭の子弟である者
- ② 入学前1年以内において、学資負担者が風水害その他の災害(※1)を受けたことにより、入学料の納付が極めて困難になった者
- ③ 入学前1年以内において、学資負担者の死亡、長期療養(※2)、会社の倒産・解雇等による失業(※3)又は事業の倒産により、入学料の納付が極めて困難になった者

※1：市町村長等から「災害に係る住家の被害認定基準運用指針」に基づく「全壊」、「大規模半壊」及び「半壊」のいずれの認定を受けたことをいう。

※2：長期に入院する必要が生じたことをいう。

※3：会社の倒産・解雇等による失職のことをいう。定年や自己都合による退職はこれに含まない。

問合せ期限	令和6年12月2日(月)
-------	--------------

(3) 授業料の免除

○日本人学生

次のいずれかの項目に該当する場合は、申請により授業料の一部若しくは全部について免除又は徴収延期となることがあります。詳細は、本学ウェブサイト又は入学後に本学ポータルサイトでご確認ください。なお、要件は改定されることがあります。

- ① 生活保護法による被保護家庭の子弟である者
- ② 申請期限前1年以内において、学資負担者が風水害その他の災害を受けたことにより、授業料の納付が極めて困難になった者
- ③ 申請期限前1年以内において、学資負担者の死亡、長期療養、会社の倒産・解雇等による失業又は事業の倒産により、授業料の納付が極めて困難になった者
- ④ 上記①、②、③以外で、経済的理由により授業料の納付が困難な者

○外国人留学生

外国人留学生対象の授業料免除制度が設けられています。詳細は入学後に本学ポータルサイトでご確認ください。※内容については、今後変更する可能性があります。

(4) 問合せ先

学務部学務課 E-mail g-shien@mail.aichi-fam-u.ac.jp

13 入試結果の閲覧

愛知県個人情報の保護に関する法律施行条例に基づき、音楽研究科入学試験の結果については、口頭により受験者本人が自己の入試結果の閲覧を求めることができます。

- | | |
|------------------|---|
| (1) 閲覧できる範囲 | 科目別得点、領域別実技試験ランク、面接試験のランク(A, B, C, D, Eの5ランクで開示します。) |
| (2) 閲覧できる期間 | 令和6年10月29日(火)合格発表時刻～令和6年11月28日(木)午前9時から午後5時まで。ただし、土・日曜日、祝日等の休業日は除きます。 |
| (3) 閲覧の受付窓口 | 本学管理棟3階 芸大総務課
受験者本人が、口頭で本学芸大総務課に申し出てください。 |
| (4) 閲覧の方法 | 本人部分のみ閲覧。 |
| (5) 閲覧に必要な書類 | 受験票と、身分証明書(学生証、運転免許証、旅券その他官公署の発行する証明書等) |
| (6) その他 | 電話、E-mail等による成績のお問い合わせには応じません。 |
| (7) 閲覧に関する問い合わせ先 | 芸大総務課 電話 0561-76-2408(直通) |

入試結果の情報提供

受験者本人の申し出に限り、郵送による成績の情報提供を行います。
申込方法及び申請書など、詳細は本学ウェブサイトでご確認ください。

14 個人情報の取扱いについて

個人情報については、個人情報保護に関連する法令に基づき適切に管理します。

- (1) 利用目的について
出願にあたって提出された氏名・住所等の個人情報は、入学者選抜並びに必要な応じ入学後の学籍管理、学習指導及び学生支援関係業務において利用します。
- (2) 第三者への個人情報の提供
取得した個人情報を本人の同意なく第三者に提供することはありません。
ただし、個人情報の保護に関する法令の定めるところにより、提供すべき義務を負う場合には本人の同意を得ることなく個人情報を提供することがあります。

15 教 員 組 織 (令和6年4月1日現在)

音楽研究科長 成 本 理 香

客 員 教 授 鍵 盤 楽 器 イリーナ・チュコフスカヤ (ピアノ)
 弦 楽 器 フェデリコ・アゴスティーニ (ヴァイオリン)
 オーケストラ 秋山 和慶 (指揮)
 オーケストラ 下野 竜也 (指揮)

客 員 教 授 作 曲 アンドリアン・ペルトウー
 (短期招聘) 管・打楽器 中村 功

作 曲 教 授 小林 聡○ 教 授 山本 裕之
 教 授 成 本 理 香 准 教 授 安野 太郎

音楽学 教 授 安原 雅之 教 授 東谷 護
 講 師 七條 めぐみ

声 楽 教 授 中巻 寛子 (メゾソプラノ)◎ 教 授 森川 栄子 (ソプラノ)
 教 授 小原 啓楼 (テノール) 准 教 授 川島 幸子 (ソプラノ)
 准 教 授 初鹿野 剛 (バリトン) 准 教 授 森 寿美 (バリトン)

鍵盤楽器 教 授 北住 淳 (ピアノ)◎ 教 授 掛谷 勇三 (ピアノ)
 教 授 内本 久美 (ピアノ) 教 授 鈴木 謙一郎 (ピアノ)
 准 教 授 中尾 純 (ピアノ) 准 教 授 武内 俊之 (ピアノ)
 講 師 秋場 敬浩 (ピアノ)

弦楽器 教 授 福本 泰之 (ヴァイオリン) 教 授 白石 禮子 (ヴァイオリン)
 教 授 桐山 建志 (ヴァイオリン) 准 教 授 渡邊 玲雄 (コントラバス)
 准 教 授 西谷 牧人 (チェロ)

管・打楽器 教 授 深町 浩司 (パーカッション) 教 授 倉田 寛 (トロンボーン)
 准 教 授 橋本 岳人 (フルート) 准 教 授 ブルックス信雄トーン (クラリネット)
 准 教 授 井上 圭 (トランペット)

教養教育等 教 授 石垣 享 (特殊研究)
 教 授 井上 彩 (原典研究・英語)
 教 授 水野 留規 (原典研究・伊語)◎
 教 授 大塚 直 (原典研究・独語)
 准 教 授 数森 寛子 (原典研究・仏語)

◎ … 令和7年3月退職予定

○ … 令和8年3月退職予定

非常勤講師

作曲

齋藤 もも (特殊研究)	ダリル・ゼミソン (特殊研究)	長江 和哉 (特殊研究)
夏田 昌和 (現代の音楽)	パウロ・ダンタス (特殊研究)	久留 智之 (特殊研究)
守屋 祐介 (特殊研究)		

音楽学

大西 宏治 (特殊研究)	周東 美材 (特殊研究)	山口 真季子 (特殊研究)
--------------	--------------	---------------

声楽

伊藤 晴 (声楽実技)	相可 佐代子 (声楽実技)	大槻 孝志 (声楽実技)
小泉 詠子 (声楽実技)	五月女 智恵 (声楽実技)	田島 茂代 (声楽実技)
船越 亜弥 (声楽実技)	三輪 陽子 (声楽実技)	渡部 純子 (声楽実技)
飯塚 励生 (オペラ総合演習)	桃井 佑子 (オペラ総合演習、重唱)	糸原 裕介 (オペラ総合演習)
下村 景 (重唱)	山本 敦子 (オペラ総合演習)	

鍵盤楽器

飯田 あかね (ピアノ実技)	伊藤 隆之 (ピアノ実技)	大崎 由貴 (ピアノ実技)
大瀧 拓哉 (ピアノ実技)	奥村 理恵 (ピアノ実技)	金丸 友理絵 (ピアノ実技)
川井 綾子 (ピアノ実技)	熊谷 恵美子 (ピアノ実技)	小坂 圭太 (ピアノ実技)
高橋 早紀子 (ピアノ実技)	田中 ゆりあ (ピアノ実技)	鶴見 彩 (ピアノ実技)
西山 郁子 (ピアノ実技)	平沢 匡朗 (ピアノ実技)	廣瀬 啓子 (ピアノ実技)
扶瀬 絵梨奈 (ピアノ実技)	松川 儒 (ピアノ実技)	宮代 尚子 (ピアノ実技)
山口 雅敏 (ピアノ実技)	平井 み帆 (チェンバロ実技)	吉田 恵 (オルガン実技)

弦楽器

小林 美恵 (ヴァイオリン実技)	島田 真千子 (ヴァイオリン実技)	百武 由紀 (ヴィオラ実技、特殊研究)
花崎 薫 (チェロ実技、室内楽)	石橋 直子 (オーケストラ)	景山 梨乃 (ハープ実技、オーケストラ)
野村 友紀 (オーケストラ)	平光 真彌 (オーケストラ)	

管・打楽器

満丸 彬人 (フルート・ピッコロ実技)	岡 北斗 (オーボエ実技)	土井 恵美 (オーボエ実技)
遠藤 文江 (クラリネット実技)	金井 信之 (クラリネット実技)	船隈 慶 (クラリネット実技)
宇賀神 広宣 (ファゴット実技)	久住 雅人 (ファゴット実技)	平野 公崇 (サクソフォーン実技)
安土 真弓 (ホルン実技)	西條 貴人 (ホルン実技)	長谷川 智之 (トランペット実技)
宮本 弦 (トランペット実技、室内楽)	田中 宏史 (トロンボーン実技)	小久保 まい (ユーフォニアム実技)
露木 薫 (ユーフォニアム実技、室内楽)	林 裕人 (テューバ実技、室内楽)	小森 邦彦 (マリンバ実技、室内楽)
新田 ユリ (ウインドオーケストラ)	矢澤 定明 (ウインドオーケストラ)	秋口 響哉 (室内楽)
浅井 崇子 (室内楽)	大久保 成美 (室内楽)	杉木 峯夫 (室内楽)
田作 幸介 (室内楽)	箱崎 由衣 (室内楽)	八木 健史 (室内楽)

教養教育等

ロムアルド・バローネ (特殊研究)
井村 和寛 (複合芸術研究)
磯田 有香 (複合芸術研究)

オーケストラ

松川 智哉 (オーケストラ、指揮法)
太田 弦 (オーケストラ)

■実技試験内容及び課題曲

＜「Ⅰ. 作曲領域の提出作品」及び「Ⅱ. 音楽学領域の研究計画書」の提出時の共通事項＞

- (1) 提出期間：令和6年9月12日（木）から9月19日（木）午後5時まで
- (2) 提出先：入試課
- (3) 郵送の場合は、簡易書留速達郵便により締切日消印有効とします。
(ただし、日本国外から郵送する場合は締切日午後5時必着とします。)
なお、封筒の表に必ず「音楽研究科音楽専攻作曲領域提出作品」又は「音楽研究科音楽専攻音楽学領域研究計画書」と朱書してください。
- (4) 直接提出する場合は、午前10時から午後5時までとします。(ただし、土・日曜日、祝日等、大学が休業となる日は受け付けません。)

I. 作曲領域の提出作品

4曲以上（種類は問わない）の作品を提出してください。

※ 提出作品は楽譜またはCD(-R)やDVD(-R)等(USBメモリやSDカード等に記録した映像や音声データでも可)で提出してください。ただし少なくとも2作品は楽譜の形で提出してください。作品資料提出はコピー(A3サイズ以下)とし、氏名、題名、制作年を明記、必要があれば補足説明なども付けてください。必ず本人の制作物とします。

(作品は後日返却しますので、返却返信用封筒を同封してください)

※ 返却返信用封筒について

1 作品の入る封筒に、「返却作品在中」と朱書きしてください。

2 返却方法は、郵便局のゆうパックとします。

ゆうパック送り状(料金着払い用)に以下を記入してください。

【お届け先】に、志願者の郵便番号、住所、氏名、電話番号を記入。

【ご依頼主】に、同上と記入。【品名】に、楽譜と記入。【配達希望日】は記入しない。

3 上記のゆうパック送り状を返却用封筒に貼付してください。

II. 音楽学領域の研究計画書

4,000字程度の研究計画を所定の様式で、提出してください。

Ⅲ. 声楽領域実技

- (1) アリアと歌曲の両方によって構成する 10 分以上 15 分以内のプログラムを組み、入学願書の「受験曲目」欄に【①作曲者名、②曲名、③曲ごとの演奏時間】を記入し提出してください。演奏時間には曲間は含みません。実質的な演奏時間が 10 分未満の場合は失格とします。
- ※ アリアと歌曲の両方を必ず演奏してください。
 - ※ アリアは、オペラ・アリア、オペレッタ・アリア、コンサート・アリア、あるいは宗教曲のアリアとし、原則として原調での演奏とします。
 - ※ 演奏はすべて暗譜でおこなってください。
 - ※ 作曲者を問わず、歌詞は原則として原語とします。
 - ※ 曲目は当日指定する場合があります。
- (2) 受験者は伴奏者を同伴してください。また、伴奏者の情報を願書に記入してください。他の実技系領域の試験が同日に行われるので、伴奏者の依頼にあたっては十分注意してください。

Ⅳ. 鍵盤楽器領域（ピアノ）実技

下記の(a) (b) (c)を必ず含むピアノ独奏作品による 40 分以上のプログラムを用意してください。

- (a) バロック時代の任意の作品
 - (b) 古典派（J. Haydn、W. A. Mozart、L. v. Beethoven に限る）の任意の作品
 - (c) ロマン派以降の任意の作品
- ※ 出版されている作品に限ります。内部奏法などの特殊奏法を用いた作品は不可。
 - ※ (a) (b) (c)はそれぞれ複数曲の選択も可。
ただし、入学願書の「受験曲目」欄に記載した順番で演奏してください。
 - ※ 暗譜で演奏してください。演奏をカットする場合、あるいは演奏箇所を試験当日に指定する場合があります。

Ⅴ. 弦楽器領域実技

<弦楽器領域共通事項>

- (1) 時間の都合により演奏をカットする場合があります。
- (2) 他の実技系領域の試験が同日に行われるので、伴奏者の依頼にあたっては十分注意してください。

○ヴァイオリン

次の 2 曲を演奏（暗譜）してください。

- (1) J. S. Bach: Sonaten für Violine solo g-moll BWV1001、a-moll BWV1003、C-dur BWV1005
より任意の Fuga を 1 曲。 原典版の使用が望ましい
- (2) 次のグループ(a)～(g)より任意の 1 曲の第 1 楽章。カデンツァを含みます。
伴奏者を同伴してください。また、伴奏者の情報を願書に記入してください。

使用版は自由

- (a) L. v. Beethoven: Konzert D-dur Op. 61
- (b) J. Brahms: Konzert D-dur Op. 77
- (c) F. Mendelssohn: Konzert e-moll Op. 64
- (d) P. Tchaikovsky: Konzert D-dur Op. 35
- (e) A. Dvořák: Konzert a-moll Op. 53
- (f) J. Sibelius: Konzert d-moll Op. 47
- (g) B. Bartók: Konzert Nr. 2 Sz. 112

○ヴィオラ

次の2曲を演奏（暗譜）してください。

- (1) J. S. Bach: Suiten für Violoncello solo BWV1007～1011 より任意の Prélude を1曲。
使用版は自由
- (2) 次のグループ(a)～(c)より任意の1曲の第1楽章。
伴奏者を同伴してください。また、伴奏者の情報を願書に記入してください。
 - (a) W. Walton: Konzert 使用版は自由
 - (b) P. Hindemith: “Der Schwanendreher”
 - (c) B. Bartók: Konzert (遺作)

○チェロ

次の2曲を演奏（暗譜）してください。

- (1) J. S. Bach: Suiten für Violoncello solo Nr. 3 BWV1009、Nr. 4 BWV1010、Nr. 5 BWV1011、
Nr. 6 BWV1012 より任意の Prélude を1曲。 使用版は自由
- (2) 次のグループ(a)～(c)より任意の1曲の第1楽章。カデンツァを含みます。
伴奏者を同伴してください。また、伴奏者の情報を願書に記入してください。
 - (a) J. Haydn: Konzert D-dur Hob. VIIb: 2 使用版は自由
 - (b) A. Dvořák: Konzert h-moll Op. 104
 - (c) R. Schumann: Konzert a-moll Op. 129

○コントラバス

次の2曲を、いずれもソロチューニングで演奏（暗譜）してください。

- (1) H. Fryba: Suite im alten Stil (A Suite in the Olden Style) für Kontrabass solo
より Prélude 使用版は自由
- (2) 以下の協奏曲の中から1曲を選び、その第1楽章および第2楽章。
伴奏者を同伴してください。また、伴奏者の情報を願書に記入してください。
使用版は自由
S. Koussevitzky: Konzert fis-moll
G. Bottesini: Konzert Nr. 2 h-moll

○ハーブ

次の2曲をすべて繰り返しなしで演奏（暗譜）してください。受験の際は本学の楽器を使用してください。

- (1) F. Godefroid: Etude de concert Op. 193 使用版は自由
- (2) C. Salzedo: Variations sur un thème dans le style ancien 使用版は自由
(8番バリエーションの終わりに明記されているカットを行なって演奏すること)

VI. 管・打楽器領域実技

<管・打楽器領域共通事項>

- ※ マリンバ（打楽器 B）の受験者を除くすべての楽器の受験者は、伴奏者を同伴してください。また、伴奏者の情報を願書に記入してください。他の実技系領域の試験が同日に行われるので、伴奏者の依頼にあたっては十分注意してください。
- ※ 時間の都合により演奏をカットする場合があります。
- ※ 受験曲目については、フルート、オーボエ、サクソフォーン、パーカッション（打楽器 A）、マリンバ（打楽器 B）の曲目以外は入学願書に記入する必要はありません。

○フルート

下記の(1)(2)を演奏してください。暗譜の必要はありません。使用版は自由

- (1) 下記の2曲より1曲を選択し、演奏してください。
 - (a) W. A. Mozart: Concerto for Flute and Orchestra No. 1 in G major K. 313 全楽章
 - (b) W. A. Mozart: Concerto for Flute and Orchestra No. 2 in D major K. 314 全楽章
 - ・カデンツァ付き、カデンツァは任意のもの。
 - ・演奏箇所は当日指定します。
- (2) 自由曲（ただし、協奏曲は除く）
 - ・1800年以降、フルートのために作曲された作品から1曲選択すること。
 - ・7分～8分程度で演奏すること。カットして演奏することも可。
 - ・無伴奏曲も可。

○オーボエ

下記の(1)(2)を演奏してください。暗譜の必要はありません。

- (1) W. A. Mozart: Concerto in C major K. 314 第1、2楽章<カデンツァ付き> 使用版は自由
- (2) 下記の3曲より1曲を選択し、演奏してください。
 - (a) H. Holliger: Sonate für Oboe solo より Schott 版
I Präludium と II Capriccio
 - (b) A. Dorati: 5 pièces pour le hautbois より Boosey & Hawkes 版
第1曲と第5曲
 - (c) G. Silvestrini: 6 études pour le hautbois より Delatour 版または Editions du Hautbois 版
第1曲と第6曲

○クラリネット

下記の2曲を演奏してください。暗譜の必要はありません。使用版は自由

- (1) W. A. Mozart: Konzert für Klarinette und Orchester K. 622
第1・3楽章はカデンツァなし、第2楽章はカデンツァありで演奏してください。
- (2) I. Stravinsky: Three Pieces for Clarinet Solo

○ファゴット（バスーン）

下記の2曲を演奏してください。暗譜の必要はありません。

使用版は自由

(1) F. Devienne: Sonata in F Op. 24 No. 3

1. Allegro 2. Largo 3. Rondo Allegretto

(2) E. Bozza: Récit, Sicilienne et Rondo

○サクソフォーン

下記の課題曲と選択自由曲1曲を演奏してください。

(課題曲) J. Ibert: Concertino da camera より第1楽章 (暗譜)

A. Leduc 版

(自由曲) 下記の曲より1曲を選択し、演奏してください。暗譜の必要はありません。

(1) A. Waignein: Rhapsody for Alto saxophone and orchestra or piano より
任意の2つの楽章

Scherzando 版

(2) E. Denisov: Sonate pour Saxophone Alto et Piano 全楽章

A. Leduc 版

(3) P. Creston: Saxophone Concerto Op. 26 より

G. Schirmer 版

第1、第2楽章、もしくは第2、第3楽章

(4) E. Larsson: Concerto for Saxophone and String Orchestra Op. 14 より

Gehrmans 版

第1、第2楽章

(5) L. Robert: Cadenza pour Saxophone mib et piano

Billaudot 版

(6) I. Gotkovsky: Concerto pour Saxophone alto et orchestre

Transatlantiques 版

(7) P. Bonneau: Capris en forme de valse

A. Leduc 版

(8) 棚田文紀: Mysterious morning III

Lemoine 版

(9) L. Berio: Sequenza VII b

Universal 版

(10) A. Desenclos: Prelude Cadence et Finale pour Saxophone Alto et Piano

A. Leduc 版

課題曲から始め、自由曲は当日指示の通りに演奏してください。(自由曲は最大で約10分程度の演奏時間のため、それを越える曲は演奏箇所を当日試験官が指示します。)

○ホルン

下記の曲を演奏してください。暗譜の必要はありません。

R. Strauss: Concerto for Horn and Orchestra No.1 in E flat major, Op. 11

使用版は自由

全楽章を演奏、ただし伴奏部分カットあり。カットの箇所は以下を参照。

・第1楽章…冒頭から演奏後、7小節目に入らず25小節目に入り131小節目まで(ピアノは初めの和音を二分音符分伸ばして終わる)演奏してください。

・第2楽章…Andante部分から演奏開始、そのまま第3楽章最後まで演奏してください。

○トランペット

下記の曲を演奏してください。暗譜の必要はありません。楽器の指定はありません。

J. Haydn: Trumpet Concerto in E flat major Hob. VIIe:1

使用版は自由

○トロンボーン

下記の2曲を演奏してください。

- (1) F. David: Concertino in Eb, Op. 4 Zimmermann 版
暗譜で演奏してください。演奏箇所は当日指定します。
- (2) V. Persichetti: Parable for Solo Trombone Op. 133 Theodore Pressere Company 版
暗譜の必要はありません。

○バストロンボーン

下記の2曲を演奏してください。

- (1) F. David: Concerto (Concertino) in B♭ for Bass Trombone Zimmermann 版
暗譜で演奏してください。演奏箇所は当日指定します。
- (2) J. S. Bach: Cello Suite No. 5 BWV1011 より Sarabande 使用版は自由
繰り返しありで演奏してください。暗譜の必要はありません。

○ユーフォニアム

下記の2曲を演奏してください。暗譜の必要はありません。

- (1) G. Ph. Telemann: 3 Fantasias for Solo Euphonium より Fantasia No.7 (TWV 40:20) I、II The Brass Press (a division of Edition BIM)版
- (2) J. Horovitz: Euphonium Concerto 全楽章 Novello 版

○チューバ

下記の曲を演奏してください。暗譜の必要はありません。

- J. Koetsier: Concertino Op. 77 for Tuba and String Orchestra Editions Bim 版

○パーカッション (打楽器A)

下記の2曲を演奏してください。

- (1) セットアップを含む楽器編成による任意の楽曲(10分程度、省略可)
- (2) ティンパニによるオーケストラスタディ
G. F. Händel: Der Messias HWV56 より Hallelujah (ピアノ伴奏付き)
ピアノ伴奏譜は Breitkopf 版 (Edition Breitkopf 2419)を使用してください。

- ・課題(1)の曲目は、入学願書の「受験曲目」欄に記入し、提出してください。
- ・入学願書の「受験曲目」欄に、使用する楽器(持参する楽器も含む)を記入してください。
- ・大物打楽器は本学所有のものを使用いただけますが、持参する楽器がある場合は、出願の際に申し出て、搬入・搬出方法について本学と協議してください。
- ・課題(1)の譜面は、出願書類に同封し、提出してください。

○マリンバ（打楽器B）

下記の曲を演奏してください。

マリンバによる、12分程度の無伴奏独奏曲（省略不可）。暗譜で演奏してください。

（参考例）向井耕平：Prelude and Allegro

A. Viñao: Khan Variations

J. Schwantner: Velocities

R. R. Bennett: After Syrinx II

- ・上記の曲目は、入学願書の「受験曲目」欄に記入し、提出してください。
- ・上記の譜面は、出願書類に同封し、提出してください。
- ・マリンバは本学所有のもの（ヤマハ：YM-5100A）を使用してください。

■令和6年度音楽研究科博士前期課程入試 試験実施状況

音 楽 研 究 科	領 域	募集 人員	志願者数	受験者数	一次合格者数	最終合格者数	入学者数
	作 曲	30	1	1	1	1	0
	音 楽 学		4	3	3	1	1
	声 楽		19	18	12	8	8
	鍵 盤 楽 器		18	17	11	8	7
	弦 楽 器		9	8	6	6	5
	管・打楽器		16	16	6	5	5
	計	30	67	63	39	29	26

■令和6年度音楽研究科博士前期課程入試 試験問題

西洋音楽史（作曲／声楽／鍵盤楽器／弦楽器／管・打楽器領域）

【試験問題】

I. 次の（１）～（６）からひとつ選び、具体的な作品を挙げながら自由に論じてください。文字数の制限はありません。

- （１）J. S. バッハの声楽を含む作品
- （２）ヴィヴァルディの協奏曲
- （３）ドビュッシーのピアノ作品
- （４）ヴォルフの声楽作品
- （５）バルトークの器楽作品
- （６）ショスタコーヴィチの器楽作品

II. 次の（１）～（４）からひとつ選び、18世紀後半から19世紀末までの変遷を説明してください。その際、18世紀後半、19世紀前半、19世紀後半から、それぞれ1曲ずつ重要な作品を挙げて論じてください。文字数の制限はありません。

- （１）交響曲
- （２）ピアノ・ソナタ
- （３）オペラ
- （４）室内楽

III. 問題文に合うように、語群から正しいものを選んでください。

12世紀後半～13世紀のフランスで活躍したレオニヌスやペロティヌスは（１）楽派と呼ばれる。彼らが作曲した（２）では、長く引き伸ばされたテノール声部の上に新たな旋律がつけられた。13世紀後半になると、多声音楽の各声部に異なる歌詞をつけた（３）というジャンルが誕生した。ヴィトリの（３）では、一定の旋律型とリズム型を組み合わせた「アイソリズム」の技法が使われた。

16世紀には、オケゲムやジョスカン・デ・プレなどの（４）楽派が活躍した。またこの時代、ヨーロッパ各国では特色あふれる世俗音楽が発展した。イタリアでは軽やかな旋律によるフロットラや、言葉と音楽の関係を重視する（５）が流行した。さらに、宗教改革によって、ドイツではルター派の礼拝で歌われる単旋律賛歌である（６）が成立した。

バロック時代はオペラの誕生とともに幕を開ける。フィレンツェのアカデミーのひとつ（７）は、ギリシア演劇を模範とする音楽のあり方を唱え、オペラの誕生を促した。初期のオペラでは、単旋律をバスと和音で支える（８）様式や、語りと歌の間のようなレチタティーヴォ様式が用いられた。器楽の分野では、ソナタは楽章構成の点から（９）と（１０）に分けられる。（１０）は速度や拍子の異なる舞曲からなり、のちに「組曲」へと発展した。

1720年代～1780年代の前古典派の時代、社会体制の変化にともない、音楽のあり方は大きく変化した。オペラの分野では、イタリアにおいて、伝統的な題材を用いるオペラ・セリアと、庶民的な題材による（１１）が流行した。その後、フランスではペルゴレーシのインテルメッツ《奥様女中》の上演をきっかけに、イタリア・オペラとフランス・オペラの優劣を争う「（１２）」が起こった。

古典派の時代には、交響曲、弦楽四重奏曲、鍵盤楽器のソナタなど、器楽曲の形式が確立した。ハイドンは（１３）侯爵家に仕える中で、多数の交響曲や弦楽四重奏曲を作曲し、これらのジャンルの「ひな形」を作り上げた。その特徴の一つが、《ザロモン交響曲》で確立された、オーケストラにおいて各一對の木管楽器をそなえる（１４）である。

19世紀はロマン派の時代である。この時代には、音楽と文学、絵画などとの結びつきが重視され、具体的なタイトルや説明文をもつ標題音楽が発展した。その代表的なジャンルとして、シューベルトの《楽興の時》やシューマンの《子供の情景》のような（１５）と、リストがオーケストラにおいて創始した（１６）が挙げられる。オペラにおいては、（１７）が詩と舞台美術、音楽、演出が一体となった「楽劇」を作り上げた。

20世紀初頭には、シェーンベルク、ベルク、ヴェーベルンらの（１８）楽派により、人間の生々しい感情を強調する「表現主義」の音楽が書かれた。1920年代に入ると、シェーンベルクは調性に代わる新たな音楽語法として十二音技法を考案した。第2次世界大戦後には、シュトックハウゼンらにより、十二音技法を発展させた「（１９）音楽」が書かれるようになった。アメリカでは

(20) が偶然性・不確定性の音楽を考案し、従来の作曲や音楽表現のあり方を根本から問い直した。

語群

あ	カメラータ	さ	モンテヴェルディ	な	セリー
い	性格的小品	し	モノディー	に	フランドル
う	教会ソナタ	す	ケージ	ぬ	ブルゴーニュ
え	百科全書	せ	ブフォン論争	ね	室内ソナタ
お	ノートルダム	そ	オペラ・コミック	の	シャンソン
か	新ウィーン	た	オペラ・ブッフア	は	二管編成
き	コラール	ち	R. シュトラウス	ひ	ライヒ
く	交響詩	つ	幻想交響曲	ふ	マドリガーレ
け	新ドイツ	て	オルガヌム	へ	ヴァーグナー
こ	モテット	と	エステルハージ	ほ	ハプスブルク

【出題の意図】

大学院での研究に必要な音楽史の基礎的知識を備えているかを問う。音楽史におけるさまざまな様式を認識し、それを歴史的な脈絡で捉えるための知識が必要とされる。

【解答】

I (記述式問題のため、省略)

II (記述式問題のため、省略)

III (1) お (2) て (3) こ (4) に (5) ふ (6) き (7) あ (8) し (9) う
(10) ね (11) た (12) せ (13) と (14) は (15) い (16) く (17) へ
(18) か (19) な (20) す

音楽学 (音楽学領域)

【試験問題】

I. 別紙の文章を読んで、あなたはどのように研究に活かしますか。自由に論じてください。なお、文字数の制限はありません。

【出典】

・杉本秀太郎『洛中生息』(1976年)

II. 次の(1)～(10)からひとつ選び、論じてください。なお、文字数の制限はありません。

- (1) 音楽メディアの変遷と音楽
- (2) 西洋音楽の伝播と受容
- (3) 音楽史における地域史
- (4) 音楽におけるイメージと実像
- (5) 伝統音楽にみる継承と発展
- (6) 地方の音楽文化
- (7) 日本の楽器産業の盛衰
- (8) 楽器改良と音楽作品
- (9) 音楽ジャンルの越境と融合
- (10) ポピュラー音楽にみるジャンルの誕生

【出題の意図】

大学院における音楽学研究に必要な基礎的知識および理解力、資料読解力、論述力を備えているかを問う。

【解答】（記述式問題のため、省略）

外国語〔英語・独語・仏語・伊語〕（作曲／声楽／鍵盤楽器／弦楽器／管・打楽器領域）

【出題の意図】

大学院での研究に必要な外国語の文献を理解する能力を備えているかを問う。外国語の文章の語句、節、文レベルの理解だけでなく、段落全体の論旨の展開を把握する読解力が必要とされる。また、解答に際しては原文の理解を正確な日本語で訳出することが求められる。

【出典】

〔英語〕・Clarke, Eric. "Understanding the Psychology of Performance." In *Musical Performance: A Guide to Understanding*, edited by John Rink, 59-72. Cambridge: Cambridge University press, 2002.

・Perchard, Tom, Stephen Graham, Tim Rutherford-Johnson and Holly Rogers. *Twentieth-Century Music in the West: An Introduction*. Cambridge: Cambridge University Press, 2002.

〔独語〕・Ulrich Schreiber: *Opernführer für Fortgeschrittene*. Bärenreiter-Verlag 2013.

〔仏語〕（令和6年度は実施しなかったため、令和5年度の出典を掲載しております。）

・Madame de Staël, *De l'Allemagne*(1813), GF-Flammarion, Paris, 1968.

〔伊語〕・Sonia Baiini, Silvia Consonno, *Verbi italiani*, 2004

・Mauro Pichiassi, Giovanna Zaganelli, *Contesti italiani*, 2012

外国語〔英語〕（音楽学領域）

【出題の意図】

大学院における音楽学研究に必要な、語学の能力を備えているかを問う。

【出典】

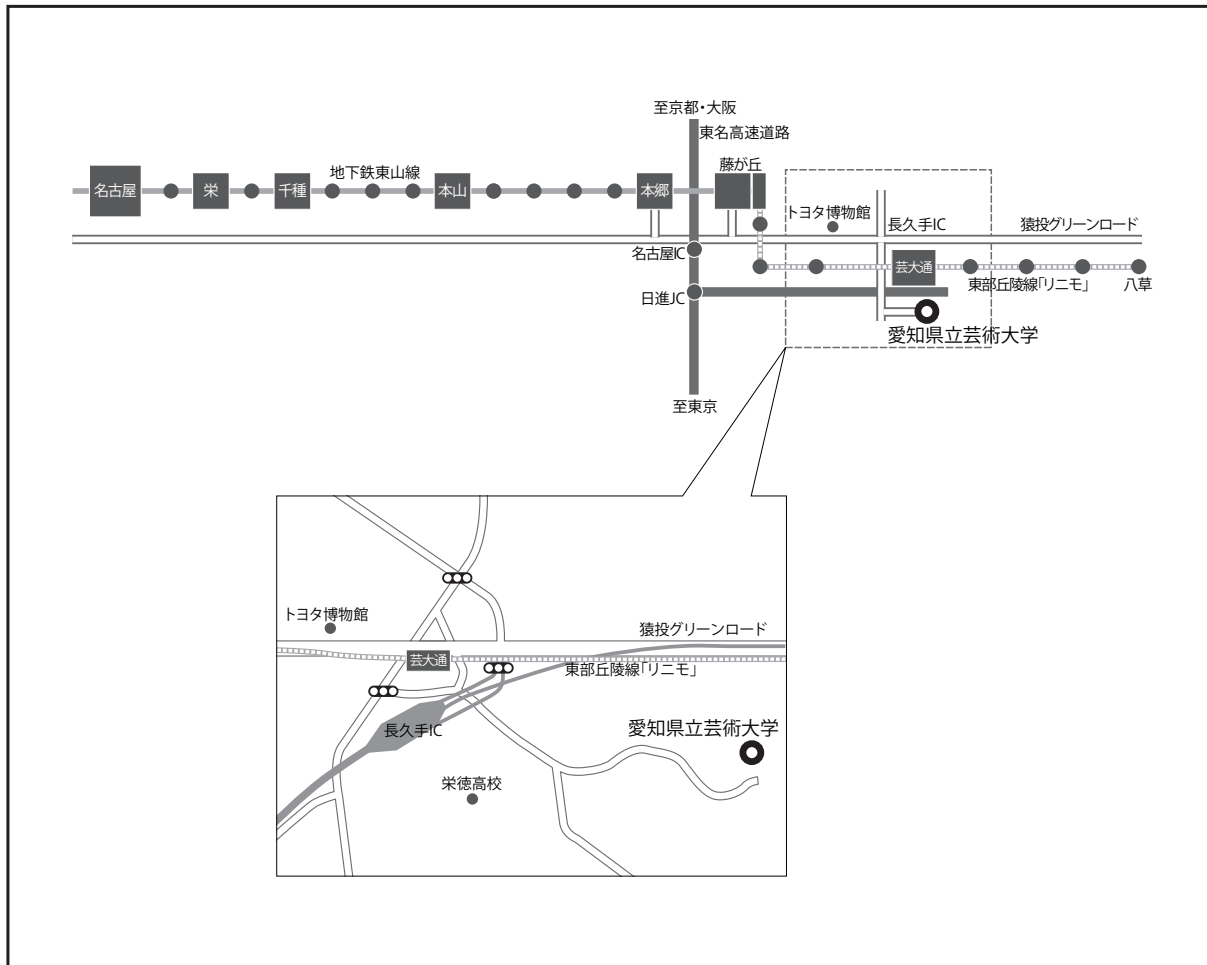
〔英語〕・Stuart Campbell (ed.). *Russians on Russian Music, 1830-1880*. Cambridge University Press, 1994.

・Stefanie Beghein, Bruno Blondé & Eugeen Schreurs (eds.). *Music and the City: Musical Cultures and Urban Societies in the Southern Netherlands and Beyond, c. 1650-1800*. Leuven University Press, 2013.

※外国語の試験問題は、本学管理棟3階入試課において閲覧できます。

（閲覧時間 平日午前9時から午後5時まで）

所在地案内図



■名古屋方面から

市営地下鉄東山線終点「藤が丘」駅下車、東部丘陵線（リニモ）に乗り換え「芸大通」駅下車、徒歩約10分。（改札正面の階段を下りて右方向へ）

もしくは市営地下鉄東山線「本郷」駅または「藤が丘」駅からタクシーで約20分。

■豊田・瀬戸方面から

愛知環状鉄道「八草」駅下車、東部丘陵線（リニモ）に乗り換え「芸大通」駅下車、徒歩約10分。（改札正面の階段を下りて右方向へ）

愛知県立芸術大学

愛知県公立大学法人 愛知県立芸術大学 入試課
〒480-1194 愛知県長久手市岩作三ヶ峯1-114
TEL 0561-76-2603(入試課直通)

愛知県立芸術大学ウェブサイトURL:
<https://www.aichi-fam-u.ac.jp/admission/>

